

にぎわい

東北版

～ 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信 ～
平成19年1月発行

Vol. 103

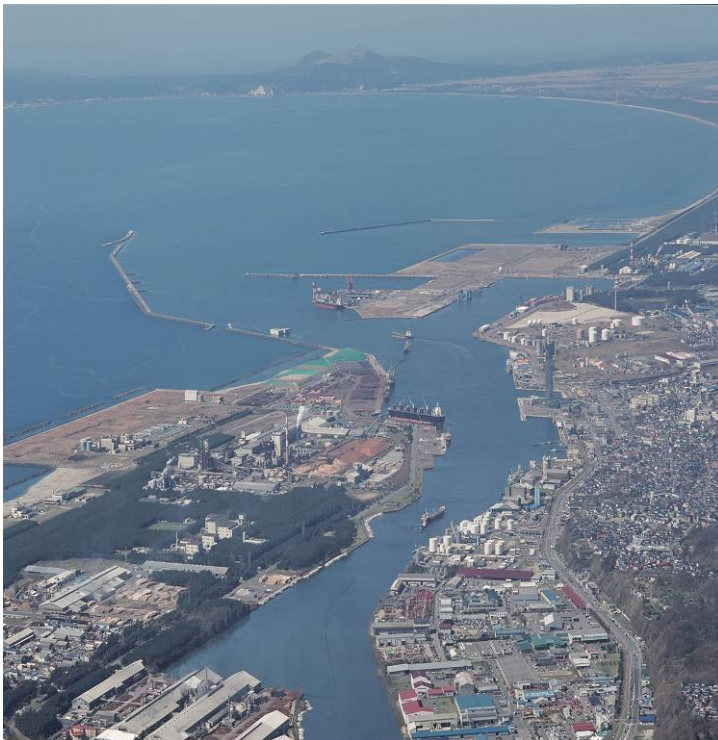
目次

1. 秋田港の物流と観光スポットの変化
..... 秋田県秋田市
2. 豪華客船の共演
..... 山形県
3. 特集：海岸漂流物
NPOの活動報告

秋田県秋田市

秋田港の物流と観光スポットの変化

秋田港コンテナ取扱量が3万TEU達成！



北東北のゲートウェイ秋田港

秋田港は、元は土崎湊と称し、県内最大河川雄物川の河口に発展してきた港で、古くは鎌倉時代からその名が知られ、江戸から明治期にかけては、主要物資である米・木材・鉱産物等の北前船や川船による出荷でにぎわいました。昭和26年に重要港湾に指定、昭和40年には秋田湾地区新産業都市の指定を受け、近代港湾としての本格的な整備が進められ、後背地には亜鉛製錬所、火力発電所、製紙工場、木材関連工場等が立地しています。

また、近年では、平成7年に韓国との国際定期コンテナ航路が、平成11年には内航定期フェリーが開設され、北東北のゲートウェイとして重要な役割を果たしております。

そして、秋田港では、昨年(平成18年)1年間の取扱量が、輸出入合わせて初めて3万TEUに達する見通しとなりました。

国際コンテナ貨物は、平成7年11月の定期航路開設以降、平成9年に1万TEU、平成13年には2万TEU突破と、順調に取扱量が伸びてきており、東北地方では仙台塩釜港に次いで二番目の3万TEU達成港となります。これからもますます取扱量が増加することで、港の発展が期待されるところです。



躍動するコンテナ埠頭

ポートタワーが市の施設になります！

秋田港を訪れる時、真っ先に目にする施設と言えば、ポートタワーです。ポートタワーは、市民港としての秋田港再生のシンボルとして平成6年4月に建設され、全高143.6メートル、延床面積4,600平方メートル、5階建て、ガラス張りの近未来的な外観が特徴で、日本海に沈む夕日や市内一円、男鹿半島などが一望できる高層部5階、地上100mの展望室をはじめ、4階は展望ラウンジ、3階は絵画・写真展示ギャラリー、低層部1、2階はレストラン、軽食、おみやげ店、各種イベントホールを備え、年間40万人もの人々が訪れる施設です。



秋田港の観光スポット ポートタワー

これまで第三セクター会社により建設、運営してきたこのポートタワーが、この度、秋田市で買い取りし、公の施設になることとなりました。

秋田市では、昨年12月に条例を設定し、現在、指定管理者を募集しているところですが、展望やホールの利用料を低料金化して、指定管理者による効率的・効果的な管理のもと、より一層にぎわいのある施設運営を目指します。

秋田にお越しの際は、ぜひ秋田港、ポートタワーを訪れてみてください！

豪華客船の共演

ASUKA II rendezvous PACIFIC VENUS

平成18年9月1日、酒田港・古湊ふ頭において、国内最大級の豪華客船「飛鳥II」と「ぱしふいっくびいなす」が同時にお目見えしました。

酒田港には例年、2・3隻の客船が寄港しておりましたが、同時寄港することはなく、また同じふ頭に並んで接岸することなど通常では考えられないことなのですが、そんな夢のようなことが実現しました。

はじめに入港したのが「ぱしふいっくびいなす(26,518t)」です。飛鳥IIより一日早く、8月31日の9:30頃に入港しました。今回は「秋の日本一周探訪クルーズ」の最初の寄港地としての入港でした。



接岸時には一目見ようと多くの見学者が訪れ、乗船客ともあいまって大変賑い、その中で入港歓迎セレモニーが行われました。

その後一般乗船があり、応募されていた一般の方々が船内を見学されました。さすが国内有数の豪華客船ということで、充実した設備に豪華な装飾、また細やかな心配りなど、見学者もただただ感心するばかりでした。



乗船客の方々は、オプションツアーなどで山形の味覚や温泉を楽しむにバスで出かける方や、市内散策にタクシーや自転車で出かけていく方、徒歩で散歩される方や船内でのんびりされる方など、それぞれに過ごされていました。

夜の船内では、伝統芸能である「黒川能」と「吹浦田楽」が地元の方々により披露され、大変好評だったようです。乗船客の方々には十分に山形庄内・酒田を満喫された様子でした。

また、夜間停泊中はライトアップされ、ふ頭も華やかになり、夜が更けるまでカップルや親子づれで賑っていました。



そして翌日早朝、「飛鳥II(51,000t)」の入港です。言わずと知れた日本最大の豪華客船です。この春に就航したばかりで、今回は初入港になります。「道東クルージング」の出航地として寄港されました。去年は先代「飛鳥」が寄港されましたが、それより一回りも二回りも大きな船体に、ただただ圧巻のひとつ言でした。

7時前には接岸を終え、いよいよここから2隻が並んで「ランデブー」の始まりです。

心配された天気も何とか回復した中、世紀の光景を一目見ようと、平日にもかかわらず大勢の方々がふ頭に訪れ、さながらお祭り騒ぎの賑わいを見せました。

2隻合わせた総トン数が約 77,000t と、まさに大迫力の光景にただただ圧倒されるばかりで、普段は広々としている古湊ふ頭も、この時ばかりは所狭しといった状況でした。

9時には「ばしふいっくびいなす」が、次の寄港地へ向けて出港。わずか2時間ばかりでしたが、2隻同時に見ることができ、訪れた方々も写真を取ったり船体に近づいて眺めたりと、思い思いに堪能していました。



10時には「飛鳥Ⅱ」も出港。大勢の人に見送られ、紙テープの舞う中、目的地に向けて旅立っていきました。

両客船が去った後は、またいつものふ頭に戻ったのですが、先程までの賑わいと打って変わっての静けさに、物悲しささえ感じるほどでした。

飛鳥Ⅱは3日に再来港、夕方であったため、「夕映えの飛鳥Ⅱ」も楽しませていただきました。

当日の写真や、セレモニーのときに取り交わした記念品を「山形県酒田海洋センター」内に展示しております。是非足をお運びいただきまして御覧下さい。



特集

海岸に打ち寄せられる漂流物（青森県七里長浜）



日本海に面した、冬の七里長浜の様子です。プラスチック製の容器、ドラム缶、船の防舷材らしきものなど様々な漂流物が海岸に打ち寄せられているのが現状です。



NPOの活動紹介

あおもりみなとクラブ

「みなとの賑わいの創造」をミッションに、地域の発展を支えてきた青森港及び青森市の歴史・文化について考え、伝承し、またこれらを広く啓発していくとともに、港の活性化に関する整備・運営についての様々な提案を行うことを目的として平成17年9月に認証を受け設立されました。



青函緑地でのフリーマーケット

「みなとオアシスあおもり」の運営、「学校教育と連携した海の世界学習モデル事業」の企画、「復元北前型弁才船みちのく丸」の運営など“みなとの元気応援隊”として活動しています。



学校教育と連携した海の世界学習モデル事業

●みなとオアシスあおもり

青函連絡船の発着場周辺を中心としたエリアです。

施設の中心となる「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」は、青函連絡船を当時の姿で利用した日本初の鉄道連絡船ミュージアムで、船内には展示スペースのほか、多目的ホールも整備されており、食事休憩、各種催事、海洋学習活動の場として利用されています。

また、「八甲田丸」に隣接する青函緑地では、春から秋にかけてフリーマーケットや様々なイベントが行われ、多くの人が集まる憩いの場になっています。

【編集・問い合わせ先】

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 振興室

TEL 022-716-0003 FAX 022-716-0017

E-mail : info-k82ab@pa.thr.mlit.go.jp